

「GO-TA」施工チェックシート

■「GO-TA」施工時には、下記確認項目を必ずご確認ください。

チェック欄	確認項目
①	「GO-TA」を設置する住宅は木造軸組工法か。
②	「GO-TA」を設置する場所は、外壁の屋内側(断熱材の内側)及び内部壁か。
③	「GO-TA」を設置する柱、土台、胴差、桁及び梁の断面寸法は、105mm×105mm以上か。
④	「GO-TA」を設置する間柱の断面寸法は、30mm×105mm以上か。
⑤	ブレース(ブレースパイプ+連結ナット+ダンパー)の長さ(取り付け孔間位置)は、2,057mm以上2,757mm以下か。
⑥	「GO-TA」の取り付く柱の間隔は、900mm、909mm、910mm、1000mmか。(何れかに該当していること。)
⑦	ブレースパイプとダンパーは、連結ナットを用いて連結されているか。
⑧	連結ナットには、ブレースパイプとダンパー双方のおねじが同程度の長さずつねじ込まれているか。
⑨	取付ブラケットと柱は、専用ビス(φ6.3mm×65mm)を取付ブラケット1個につき10本用いて所定の位置に留め付けているか。
⑩	取付ブラケットと横架材は、専用ビス(φ5.4mm×45mm)を取付ブラケット1個につき6本用いて所定の位置に留め付けているか。
⑪	取付ブラケットは、柱及び横架材に直接かつ隙間無く取り付けられているか。
⑫	専用ビスは、首下までしっかりとねじ込まれているか。
⑬	ブレースと取付ブラケットは、M16専用ボルト、ナット(ばね座金付き)、平座金を用いて上部と下部を留め付けているか。
⑭	M16専用ボルトとナットは、しっかりと締結されているか。
⑮	ブレースは、ガタツキなく張っているか。
⑯	ブレース及び取付ブラケットに変形、破損、著しい錆び等の異常はないか。
⑰	間柱の切り欠きは、ブレース部分の最小限に抑えられているか。
⑱	間柱の切り欠きは、押さえ板によって補強されているか。
⑲	柱脚柱頭金物は、補正倍率(3.7倍)で選定された金物が設置されているか。

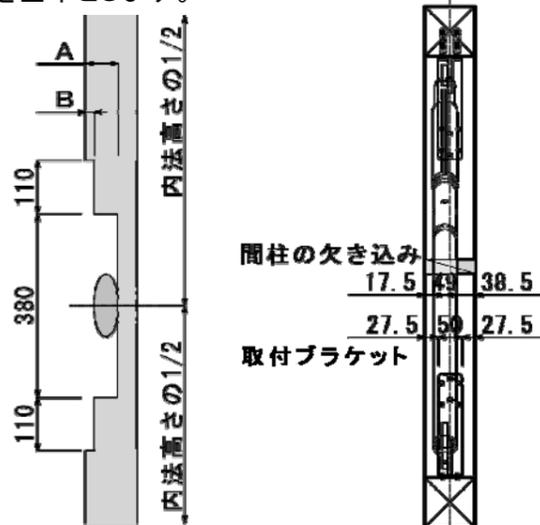
事前準備 間柱の加工/押さえ板(補強材)の加工

■「剛太」を設置する壁の間柱には、ブレースパイプの貫通部と「GO-TA」の座屈を防止する“押さえ板”を取り付ける欠き込みを施します。
 間柱への欠き込みはブレースを取り付ける方向の横架材間内法の間中部に加工します。
 ブレースパイプが貫通する下左図寸法AとBの差は、49mmを基本とします。

□ 欠き込み参考寸法: 間柱見付幅30mmにて

- | | |
|------------------|--------------|
| ◎ 欠き込み深さ | ◎ 欠き込み長さ |
| ブレース部(A寸法) | ブレース部 |
| : 66.5mm 《材幅105》 | : 380mm程度 |
| : 74mm 《材幅120》 | |
| 押さえ板部(B寸法) | 押さえ板部 |
| : 17.5mm 《材幅105》 | : ブレース部から |
| : 25mm 《材幅120》 | : 上下各110mm程度 |

■ 押さえ板は、幅30~45mmの胴縁材などで、長さ600mm、厚さ: 17mm 《材幅105》
 24mm 《材幅120》
 程度のものを使用してください。



制振ブレース「GO-TA」 株式会社タツミ 2008.09版

取付説明書

■「GO-TA」の施工に際しては、本【取付説明書(表裏)】、【「GO-TA」設計マニュアル】、【「GO-TA」施工マニュアル】並びに本巻末【「GO-TA」施工チェックシート】をご確認ください。

セット内容(同梱品)

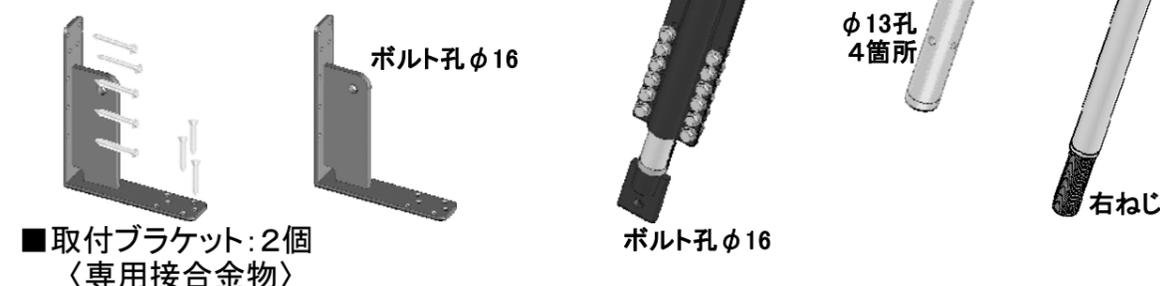
- ※ 必ず同梱の専用品をご使用ください。
- ※ ブレースパイプには各種サイズがありますので、設置箇所にご確認ください。
- ※ く)内名称は、壁倍率の大臣認定取得時に用いたものです。
- ※ ブレースパイプ+連結ナット+ダンパーを連結したものを“ブレース”と称します。

■ M16専用ボルト+平座金2枚+ナット(ばね座金付き): 2セット
 (接合用ボルト: 六角ボルト・平座金2枚・ばね座金・六角ナット) ■ ブレースパイプ: 1本
 (鋼製筋かい)

■ 専用ビス(取付ブラケット用)
 柱用 φ6.3mm×65mm: 21本(予備1本)
 横架材用 φ5.4mm×45mm: 13本(予備1本)

■ ダンパー: 1本
 (特殊摩擦接合部)

■ 連結ナット: 1本
 (連結用ナット)



必要取付工具例(木材加工は除く)

- 専用ビス用ビット/ソケット+電動ドライバー等
 柱用 : 四角ビットNo.3若しくは六角M5(対辺8mm)
 横架材用 : 四角ビットNo.3
- M16ボルト・ナット取付用レンチ(対辺24mm)・・・2本
 ラチェットレンチ・メガネレンチ・スパナ・モンキーレンチ…等
- 釘・コーススレッド/金属棒φ12程度/金槌…等

ご注意・用途以外には使用しないでください。
 ・改造その他の加工、分解、加熱など行わないでください。
 ・施工に際しては、ケガ、事故などに配慮願います。

① 取付ブラケットの留め付け

■ 取付ブラケットは、軸組の対角に留め付けます。

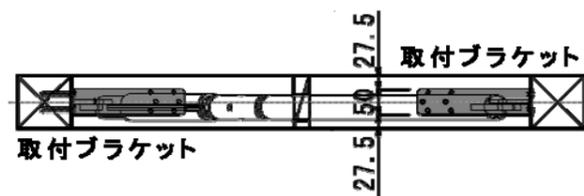
取付ブラケットの中心と壁(軸組)の通り芯を合わせます。

※ 柱仕口の補強金物やアンカーボルトと干渉しないことをご確認ください。

【取付ブラケット位置】

《例：材幅105mm》

取付ブラケット幅：50mm

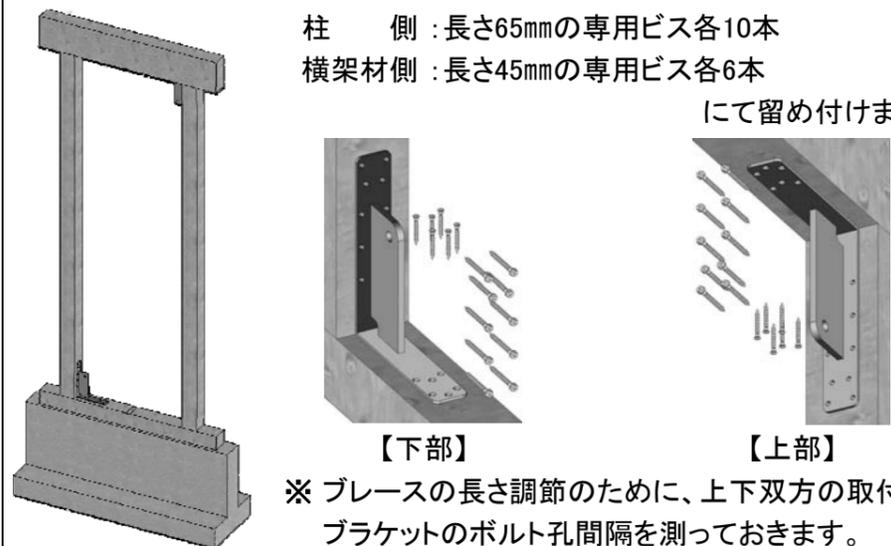


■ 取付ブラケットの軸組への留め付けは、取付ブラケット1個につき

柱側：長さ65mmの専用ビス各10本

横架材側：長さ45mmの専用ビス各6本

にて留め付けます。



② ブレース(ブレースパイプ+連結ナット+ダンパー)の組み立て

■ ブレースの組み立て

連結ナット端部のライン刻印のある方向にダンパー、反対側にブレースパイプを連結します。ダンパーの左ねじとブレースパイプの右ねじを連結ナットにねじ込み、連結ナットを下左図矢印の方向に回し連結します。両端部のボルト孔間隔は、前①にて測ったボルト孔間隔に合わせます。下右図のおねじA部及びB部は、長さ調整及び強度に影響するため、均等な長さとなるように取り付けます。

ブレースパイプ側(右ねじ)



ダンパー側(左ねじ)

※ 長さの調節

連結ナットは、ターンバックル構造となっています。ブレースを伸ばす場合は、連結ナットを上左図矢印逆方向に回します。

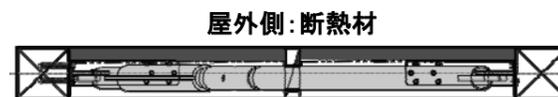
連結ナットを回し辛い場合は、中央のφ13孔

(4箇所)に金属棒などを差込み、回してください。

③ 取付ブラケットへのブレースの取り付け

■ ブレースの取り付け方向

外壁：ブレースは屋内側(断熱材の内側)に取り付け。



屋内側

内部壁：特に規定なし。

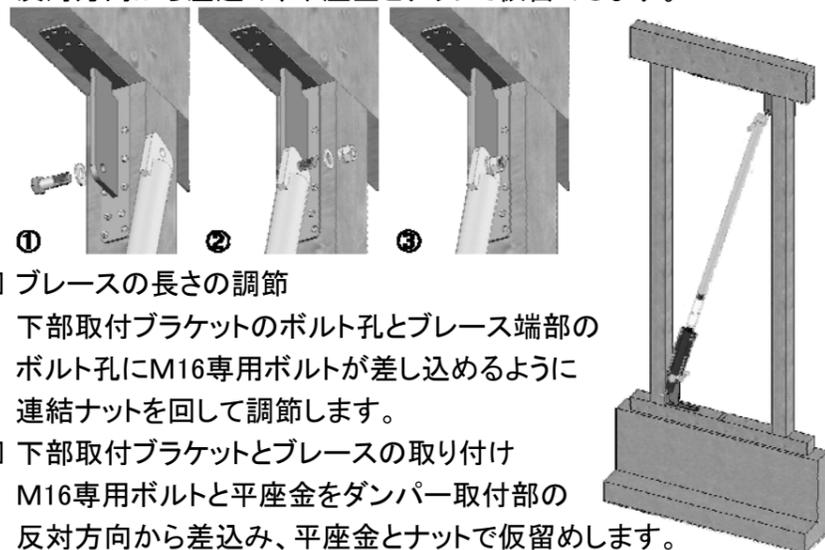
■ 上下部取付ブラケットのボルト孔とブレース両端部のボルト孔(φ16)が、概ね同じ間隔となるように、連結ナットを回して調節します。(調節方法は左下②を参照。)

■ ブレースの取り付け

ブレースはダンパーを下にして取り付けます。

□ 上部取付ブラケットとブレースの取り付け

M16専用ボルトと平座金をブレースパイプ取付部の反対方向から差込み、平座金とナットで仮留めします。

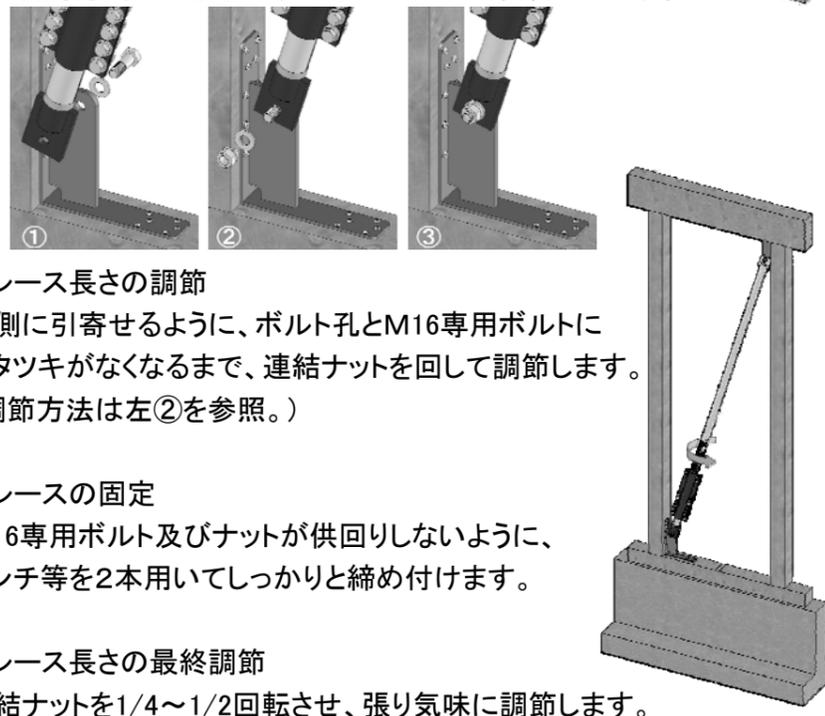


□ ブレースの長さの調節

下部取付ブラケットのボルト孔とブレース端部のボルト孔にM16専用ボルトが差し込めるように連結ナットを回して調節します。

□ 下部取付ブラケットとブレースの取り付け

M16専用ボルトと平座金をダンパー取付部の反対方向から差込み、平座金とナットで仮留めします。



■ ブレース長さの調節

内側に引寄せるように、ボルト孔とM16専用ボルトにガタツキがなくなるまで、連結ナットを回して調節します。(調節方法は左②を参照。)

■ ブレースの固定

M16専用ボルト及びナットが回りしないように、レンチ等を2本用いてしっかりと締め付けます。

■ ブレース長さの最終調節

連結ナットを1/4~1/2回転させ、張り気味に調節します。

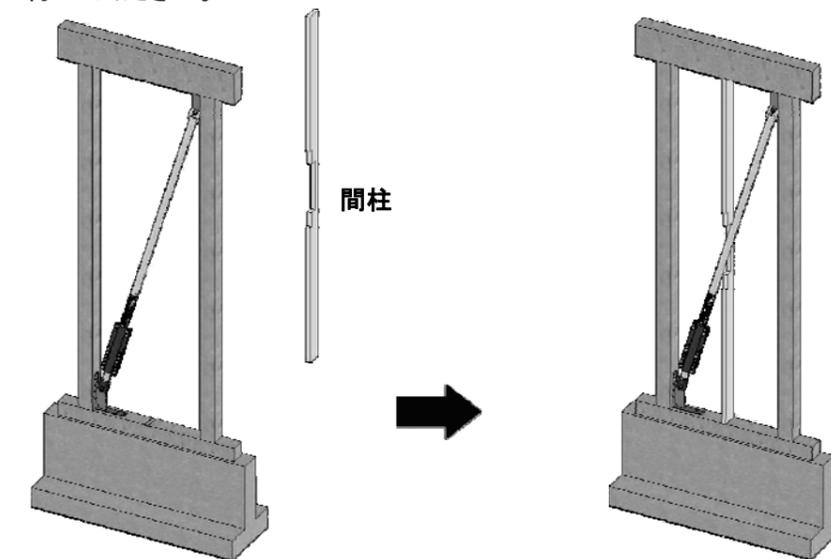
④ 間柱と押さえ板(補強材)の取り付け

■ 間柱の取り付け

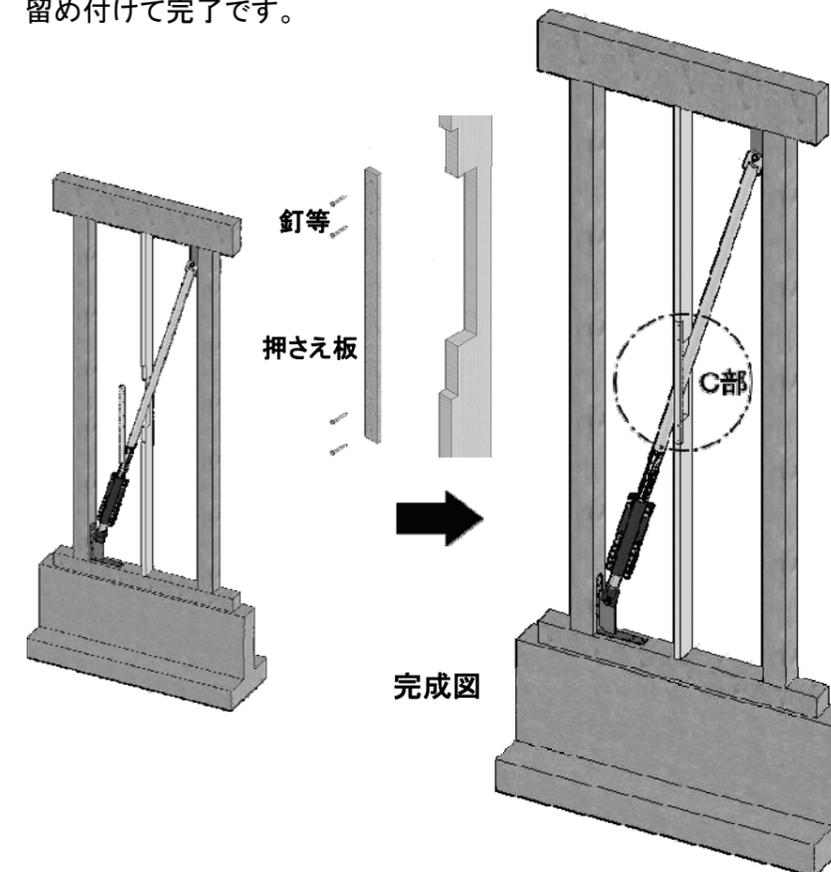
ブレースを取り付けた反対方向から、欠き込み部をブレースに向けて横架材に取り付けます。

間柱の上下を釘N75各2本斜め打ちにて横架材に留め付けます。

※ 予め本紙裏面『事前準備』の“間柱の加工/押さえ板(補強材)の加工”を行ってください。



■ 間柱の押さえ板欠き込み部に押さえ板を釘またはコーススレッド4本にて留め付けて完了です。



※ 内外装下地材及び面材耐力壁などの板材を釘・ビス留めする際、上右図“C部”にてブレースと干渉する恐れがあります。適宜、釘・ビスの留め付け間隔を調整してください。